

本年度、十一月四日から新潟市東総合スポーツセンターにおいて開催された日本リーグ二部に新潟大学男子チーム、女子チームがスポット参戦させていただきました。

日本リーグは一複四単でダブルスが三ゲームズマッチ、シングルスにおいてファイナルゲームでは六オールからのスタートという独自ルールで行っています。このルールには不慣れではありますが、逆に我々にとってはチャンスがあると考えてお



新潟大学学友会卓球部
部長・監督

牛山 幸彦

平成27年度後期日本卓球リーグ 新潟大会に参戦して



最後になりますが、この様な貴重な機会を与えていただいた新潟県卓球連盟と多大なるご支援・ご援助いただいた新潟市卓球連盟、黒崎NEOジュニア代表大滝一様、淺嶋義之様、藤田英彦様、新大卓球部OB会、新大クラブジュニア保護者会をはじめとする関係者の皆様に感謝申し上げます。その成果と

その結果四勝をあげることが出来ました。勝利した相手チームには本年度の全日本クラブ選手権覇者であり今回も三位になつたT.O.M & 卓球三昧も含まれており、学生も自信を得られたものと思いま

りました。実際に男子では大事な場面ではダブルス、シングルスともゲームオールになった場合においてそのほとんどを勝利しました。それに加え、オーダーも予想が的中して

日本卓球界最高峰の日本リーグにスポット参戦とは言え国立大学のチームが男女揃って出場出来るということは、現行の国立大学の制度では普通に考えてまずあり得ない貴重な機会でした。このような貴重な経験を選手達自身の今後に活かすと共に新大卓球部として新潟県の卓球界発展のために還元できるよう努めて行きたいと思います。

日本リーグに続いて開催された北信越学生選手権においても男子シングルスで一～三位を獲得し、その後の練習においても選手それぞれの課題へ取り組む姿勢が非常に前向きになり、選手達の成長を実感することができました。

新潟県卓球連盟

卓球便

vol.46

平成28年2月24日

発行人／新潟県卓球連盟
印刷所／(有)フジプリント
(新潟市)



日本卓球リーグ新潟大会について



新潟大学卓球部
山田 祐也

この度は、日本卓球リーグという大舞台でプレーさせて頂きありがとうございました。このような経験ができたのは、新潟県卓球連盟、新潟市卓球連盟をはじめ多くの方々のご支援・ご協力を頂いたからです。心より感謝申し上げます。

新潟大学男子卓球部は男子二部Aリーグに参加させて頂き、Aリーグでは六戦中、三勝三敗でした。その後の九位→十三位順位決定リーグでは、二戦中一勝一敗でした。全試合が終わり、結果は十三チーム中十位となりました。

今大会に参加させていただけたことは、経験したくても普段では到底経験できることではありません。そんな経験をさせて頂き、私たちは多くのことを学びました。負けた試合

の中には、前半はリードしているがら、後半には追い上げられ、敗けてしまう試合など、勝ち切れなかつた場面も少なくありません。実業団の方々には、ゲームの進め方や一つ一つの技術の高さ・豊富さを勉強させて頂きました。また、勉強させて頂けたことだけでなく、選手自身の自信につながることも多くありました。今まで練習してきたことや得意なプレーで得点することで勝利することができた際には、この大きな舞台でも通用するのだという確信を持てました。

日本リーグを通して、今後の新潟大学に必要なことは一つ一つの技術のレベルアップはもちろんですが、対戦選手に合わせた戦術を組み立てるノウハウとそれを実行する技術だと感じました。自身の得意な技術・プレーをして得点しても、すぐに対応され得点できなくなり敗れてしまったことが多くありました。得点できていない技術・プレーが対応されてしまい、別の技術・プレーをしなければ勝利することは難しく、逆に相手のプレーや

変化に対してすぐに自身が対応していく必要があると痛感しました。

この経験を生かして今後、よりよい成績が残せるよう新潟大学卓球部が一丸となり、さらに精進していくたいと思います。



バタフライは世界卓球2012~2016の公式用具スポンサーです。



卓球台：2012年、2014年、2016年／ボール：2013年、2015年



日本卓球リーグ新潟大会について



新潟大学卓球部
公平 万由里

平成二十七年十一月四日から十一月八日まで、新潟県新潟市の東総合スポーツセンターにおいて後期日本卓球リーグ新潟大会が開催されました。本学からは男女それぞれ一チームずつ、二部リーグにスポット参戦という形で出場させていただきました。今大会への参加は、新潟県卓球連盟様をはじめとする多くの方々のご支援により実現したもののです。このような貴重な経験ができる機会を与えてくださいました皆様に、深く感謝申し上げます。

女子チームの結果は、全チーム総当たりのリーグ戦で、一勝七敗で九チーム中九位という結果でした。大会一日目、女子チームの上島監督からは「今大会では大会全体を通して最低一勝はする」ことが目標だと言

われていました。日本リーグの二部といつても、どれほどのレベルなのか私たち選手はあまりわかつていなかつたので、まずは一勝を目指して、また学生らしいはつらつとしたプレーすることを目標として試合に挑みました。実際に戦つてみると、技術面での大きな差があつたと感じたのは一部の選手であり、ほとんどは戦術面での差であつたと感じました。負けてしまった試合のなかでも、7試合をフルゲームで落としてしまいました。そこまで競ることができ

この四日間を通して、これからのが課題や自分たちの通用する長所、やつていくべき課題が数多く見つかりました。また、大会に参加した学生のみならず、部全体としても今回の大会と結果は良い刺激となりました。これからも大小様々な大会がありますが、より多くの試合での良いプレーや結果に繋げられるよう努力し、微力ではありますが今後の新潟県の卓球界のさらなる発展に貢献していきたいと思います。



インターハイについて



新潟県卓球専門部委員長
小林 孝一

今年のインターハイは、滋賀県大津市の琵琶湖のほとりにある滋賀県立体育館において行われました。琵琶湖から道一つ隔てたすぐ隣にあり、選手達も競技前の準備運動で身体を動かす場面や試合後のひと休みに湖岸へ来て寛ぐ姿もありました。

大会一日目の学校対抗戦では男子初代表の開志国際高校が一回戦で茨城県代表の明秀学園と対戦し後半勝負の相手に対して幸先良く一、二番先取の後三番ダブルスを落としたものの四番鄭皓軒選手がゲームカウント三対二で接戦をものにして勝利すると共にチームも三対一で勝利を決めました。続く二回戦は広島県代表の近大附属福山との対戦となり一番で石山慎選手が相手工一スとの試合を三対〇で快勝しました。しかしそれから続く三試合を落として結局一



対三で敗退しました。一年生だけで組んだチームでしたが良く健闘したと言えるでしょう。また、学校対抗女子代表は新潟産大附属高校が出場しました。一回戦は埼玉県代表の埼玉栄と対戦しました。一番でエース対決を接戦で落としましたが、二番、ダブルス、四番を快勝し結局三対一で突破しました。二回戦は第二シードの福岡県代表希望ヶ丘との対戦でした。一番で神林舞選手が今大会ベスト十六になつた中澤選手に三対一で勝利し、大番狂わせの期待を持たせてくれましたがその後が続かず結果一対三で敗退しました。(希望ヶ

丘は今大会三位に入賞しました)大会二日目から行われたダブルスは男女とも新潟産大附属高校と開志国际高校の一ペアずつ合計四組が出場しましたが、男子の石山選手と鄭選手のペアが一勝を上げただけで他のペアは初戦敗退でした。三日目からのシングルスは男子が開志国際高校、新潟産大附属高校それぞれ二人出場し、石山選手は一回戦で強豪選手に惜敗しましたが、他の三選手は初戦を突破して今井洸気選手は三回戦まで進みました。女子は新潟産大附属高校の三選手と開志国際高校の堀美紀選手が出場しました。それぞれ一回戦は突破しましたが、いずれも二回戦で敗退しました。

全体として新潟県選手は男女共に学校対抗戦もシングルスも安定して

初戦を突破する実力は

またレシーブも簡単にミスしないようになり、失点を減らして粘り強くプレーしているように見受けられました。この先はさらに全国を勝ち抜き、全国上位の結果を出すためには何が必要かを考えていかなければと思いました。

選手はもちろん、その選手を指導する監督やコーチ、顧問の先生方は

新潟県内だけでなく全国の様子、動向を意識しながら日々の練習や試合を考え、努力を積み上げていると思います。その努力が、必ずどこかで全国での活躍に繋がると信じています。

Crossover Color Debut!

SAN-EI
Les yeux bleus
レジュブルー 青の瞳

ブルー卓球台の誕生から四半世紀。
新たな色をまとった卓球台の誕生です。
澄んだブルーに奥深いグリーンが融合するその色は
プレイヤーはもとより、会場、映像、観客のすべてを引き込む
次世代の卓球のイメージをさらに躍進させるカラーです。

株式会社 三英
www.sanei-net.co.jp



○新潟県勢の活躍

北信越大会で男子団体二位入賞を挙げられる。今年度の全中の大きなトピックとしては、新潟県勢の団体戦での出場が挙げられる。

結果たした新発田第一が出場したわけだが、新潟県勢としては、平成二十一年度の糸魚川以来四年ぶりとなる。男子団体予選リーグ、新発田第一は万騎が原（神奈川）、松山南二（愛媛）と対戦した。堀・清野・小唄の三名が確実に勝利し、リーグ一位で見事決勝トーナメントへの進出（優秀十三校表彰）を果たした。レシーブで失点を重ねる場面はあるものの、サービスからの展開では有利に試合を進め、終始落ち着いたプレー

が、準々決勝は明徳義塾（高知）との対戦。常に毎年上位に上がってくる名門校である。一番堀が相手エース

が、決勝トーナメント一回戦は横代（福岡）との対戦。一番堀。ブロック・バックハンドがよく、接戦をものにして三一二で勝利。二番清野。カツトマン相手に丁寧なプレーをし、三一で勝利。三番ダブルス。気持ちの入ったプレーをするも、惜敗。四番小唄。同じ左利き相手にミドルをうまく攻め、三一一で勝利。ベスト八入りを決めた。この瞬間、応援席も歓喜に沸いた。

も歓喜に沸いた。準々決勝は明徳義塾（高知）との対戦。常に毎年上位に上がってくる名門校である。一番堀が相手エース

第46回全国中学校卓球大会

●平成27年8月21日(金)～24日(月)

●宮城県セキスイハイムスースペアリーナ

平成27年度全国高等学校総合体育大会卓球競技 新潟県代表選手結果報告

日時：8月9日(日)～8月14日(金)
会場：滋賀県大津市滋賀県立体育馆

男子学校対抗(参加55校)

〈1回戦〉
開志国際 3-1 明秀学園(茨城県)
○石山 3-0 小久保

○中澤 3-0 鎌上
石山・山田 1-3 ○荒・川崎

○鄭 3-2 荒

〈2回戦〉
開志国際 1-3 近大附福山(広島県)
○石山 3-0 谷川

中澤 1-3 ○飯田
石山・山田 0-3 ○谷川・野涯

鄭 0-3 ○野涯

男子ダブルス(参加109組)

〈1回戦〉
渡辺 韶(新潟産大附) 1-3 梅崎 光明(岡山・倉敷工業)
今井 洸気 山本 竜也(千葉・佐賀・敬徳)
石山 慎(開志国際) 3-1 久保 岳(京都・東山)
鄭 皓軒 大井 達矢(福島・帝京安積)

〈2回戦〉
石山 慎(開志国際) 1-3 湯本 敦紀(埼玉・埼玉栄)
鄭 皓軒 玉置 怜央(群馬・樹徳)

男子シングルス(参加218名)

1回戦
石山 慎(開志国際) 2-3 首沼 洪輝(大阪・大阪桐蔭)
片桐 友翔(新潟産大附) 3-0 川原 龍二(佐賀・敬徳)
鄭 皓軒(開志国際) 3-1 川田 誠人(福島・帝京安積)
今井 洸気(新潟産大附) 3-1 下田 亮(群馬・樹徳)

〈2回戦〉
片桐 友翔(新潟産大附) 1-3 廣田 雅志(愛知・愛工大名電)
鄭 皓軒(開志国際) 2-3 鈴木 宏河(千葉・千葉経大附)
今井 洸気(新潟産大附) 3-0 小田 康介(岐阜・富田)

〈3回戦〉
今井 洸気(新潟産大附) 0-3 久保 岳(京都・東山)

女子学校対抗(参加55校)

〈1回戦〉
新潟産大附 3-1 埼玉栄(埼玉県)
神林 2-3 ○長澤

○桑原 3-0 小林
○神林・相馬 3-0 長澤・都丸

○神戸 3-1 都丸

〈2回戦〉
新潟産大附 1-3 希望が丘(福岡県・ベスト4)

○神林 3-1 中澤
桑原 1-3 ○柴田

神林・相馬 0-3 ○朝田・中澤
相馬 0-3 ○朝田

女子ダブルス(参加109組)

〈1回戦〉
堀 美紀(開志国際) 1-3 松本 静香(愛知・愛み大瑞穂)
陳 露(新潟産大附) 3-2 石田 茜
神林 舞(新潟産大附) 1-3 杉本 恵(神奈川・横浜隼人)
相馬 天音(新潟産大附) 3-2 松井 桃華(福島・帝京安積)

女子シングルス(参加215名)

1回戦
神林 舞(新潟産大附) 3-0 伊野波桃香(沖縄・普天間)
堀 美紀(開志国際) 3-2 須田 歩実(山形・鶴岡東)
長谷川真子(新潟産大附) 3-2 鳴津 奏(東京・武蔵野)

〈2回戦〉
神林 舞(新潟産大附) 0-3 鎌田 那美(北海道・駒大苦小牧)
堀 美紀(開志国際) 0-3 松田 未咲(愛媛・済美)

長谷川真子(新潟産大附) 1-3 佐藤 唯(宮城・常盤木学園)
桑原結梨奈(新潟産大附) 2-3 關谷 真由(大分・明豊)

第46回全国中学校卓球大会

（男子団体）

予選リーグ

- 新発田第一 3-2 万騎が原（神奈川）
- 新発田第一 3-2 松山南二（愛媛）

決勝トーナメント

- 1回戦 ○新発田第一 3-1 横代（福岡）
- 2回戦 2回戦 ×新発田第一 0-3 明徳義塾（高知）

ベスト
16

（男子個人）

1回戦

- 小唄周平（新発田第一）3-2 金田悠汰（東京・尾久八幡）
- 清野晃大（新発田第一）3-1 松岡優人（熊本・菊陽）

2回戦

- 堀 千馬（新発田第一）3-2 相沢龍士（埼玉・幸手）
- 小唄周平（新発田第一）3-2 津村優斗（鳥取・出雲北陵）
- ×清野晃大（新発田第一）0-3 菊池慎人（埼玉・埼玉栄）

3回戦

- ×堀 千馬（新発田第一）1-3 近藤 蓮（大分・明豊）
- ×小唄周平（新発田第一）0-3 横谷 晟（愛知・愛工大附）

（女子個人）

1回戦

- 藤田奈子（新発田東）3-1 浦 侑穂（群馬・中之条）
- 相馬夢乃（葛塚）3-0 佐藤南緒（青森・黒石）

2回戦

- 藤田奈子（新発田東）3-0 中田絵梨奈（愛知・一色）
- ×相馬夢乃（葛塚）0-3 山本 愛（山口・玖珂）

3回戦

- 藤田奈子（新発田東）3-0 高山結子（北海道・苦小牧開成）

4回戦

- ×藤田奈子（新発田東）1-3 江戸絢音（大阪・昇陽）

ベスト
16

た佐藤監督、清野コーチに敬意を表したい。男子個人では、堀、清野、小唄（いずれも新発田第一）、女子個人では、藤田（新発田東）、相馬（葛塚）が出場した。全員が初戦を突破し、強豪を相手に堂々たる試合内容であった。特に、女子個人で藤田がベスト十六に入り、大健闘であった。堀、清野、藤田が二年生、相馬が一年生であることを考えると、来年はさらに期待ができるだろう。

○ボールとプレースタイル

今回は、セルロイドとプラスチックが併用となる過渡期の大会であつた。各マッチでの選球制であつたが、ほとんどのコートでプラスチックが使用されていたようである。プレー

男子は、シェーク裏裏の攻撃型ばかりである。台上バックハンドレスードから先手をとり、両ハンドでシーブから先手をとり、両ハンドでたたみ掛けるようなプレーを中心であつた。また、ロングサービスを時折出すなど、台上バックハンドレスードを封じる戦術も多く見られた。

男子は、男子に比べると多様な戦型が見られた。どの戦型においても決定打はドライブではなく、スマッシュ（ミート）であつた。また、台上で止まるようなナックル性の打球が使用していた。プラスチックボールになり、やりやすくなつた技術ではないかと思う。表ソフトの選手が活躍しており、個人ベスト四に入つた三名が表ソフトを使用していた。叩きやすく止めやすいプラスチックボールになつたことで、表ソフトは以前より活躍できるようになるのではないか。どうか。

○最後に

新潟県勢が全国の舞台で活躍し、大盛り上がりがつた大会となつた。新潟県のトップ選手のレベルは年々上がつてきていると感じる。また、各校顧問のチームワークも見えない力となつて表れていると思う（大会会場まで応援に駆けつけてくれた先生方もいた）。今後も、県卓連やクラブチームと学校部活動とが連携していくことが重要であろう。来年度は北信越ブロック（富山県高岡市）で全国大会が行われる。チーム新潟として力を結集し、さらなる躍進を図つていきたい。



紀の国和歌山国体を終えて



成年女子監督
笹岡 光央

ト勝ち。全日本選手権ダブルス二位の森園選手を擁し、落ち着いた社会人らしい卓球をする鳥居選手、若さあふれる大学生の谷本選手。三選手の充実した試合内容は圧勝、という感じだった。

試合当日、第二

清野強化部長から打診され、成年女子監督の大役を受けさせていただいた。

選手は昨年の長崎国体で五位入賞しているメンバーで高橋結女（早稲田大学）、田中友梨（日本体育大学）、補欠に河合あかね（新潟大学）が選出された。遠征として八月七日、八日に岐阜県の十六銀行に、九月二十二日には石川県の金城大学に遠征に行かせていただいた。

いよいよ九月二十五日、河合選手を乗せ早朝に長岡を出発し、和歌山県白浜町で東京組の高橋・田中両選手と、京都から笹岡選手と合流し、現地で練習、最終調整を行つた。九月二十六日は卓球競技の開会式に参加し、明日の二回戦からの試合に備え、一回戦の愛媛県対福岡県の試合を観戦した。愛媛県がストレー

つかめずストレート負け。
二番で高橋選手と森園選手（サンリツ）。両ハンド思い切りのいい攻撃に押され、後手後手に。積極的に仕掛けで勝機を見出そうとするも勢いに押され負け。

三番で 笹岡選手と谷本選手（神戸松蔭女子学院大学）。谷本選手は前日のような思い切った攻撃はあまり見

いに押され負け。

三番で 笹岡選手と谷本選手（神戸松蔭女子学院大学）。谷本選手は前

日のような思い切った攻撃はあまり見

いに押され負け。

えず、終始 笹岡選手のペースでスト

レート勝ち。

四番で 高橋選手と鳥居選手

と鳥居選手。高橋

選手のボールの威力は圧倒的で比にならぬものの、

バッく表ソフトからナックル球に最後まで粘りきれず競るもののスト

レート負け。チー

ムは一対三で二回



戦敗退となつた。
練習・当日前の練習でも想定し練習を行つた。試合球選択のじやんけんでニッタクを選球したものの、鳥居選手は序盤からフォアハンドで緩急をつけながら田中選手のバックへうまく返球、決め球は正確に両サイドを切つた厳しいコースへ威力のあるボールを打たれなかなかペースが

にステップアップするきっかけにしでもらいたい。私自身は初めての監督であり選手とは全く違う難しさを感じました。

最後に、一緒に帯同し激励し応援していただいた浅嶋理事長、事務局藤田さん、ご声援・ご協力をいたいた関係する皆様、本当にありがとうございました。

この場をお借りし厚く御礼申し上げます。



和歌山国体ならびに全日本選手権について



早稲田大学卓球部
高橋 結女



昨年、九月二十六～三十日にかけて和歌山県白浜町で卓球競技の国民体育大会が開催されました。卓球競技は個人戦ではなく三人一チームの団体戦方式で行われるため、田中友梨選手（日本体育大学）、笹岡恵美選手（立命館大学）と共に新潟県代表として大会に挑みました。三人とも新潟産業大学附属高等学校出身で先輩後輩の関係にあたるため、チームの雰囲気はとても良好です。しかし、試合の結果は一昨年の長崎国体での五位入賞を超えることができず、不甲斐ない結果に終わってしまいました。相手は実業団で戦っている選手で、ミスが少なく冷静に試合を組み立てている感じがみられました。サーブレシーブなどラリーによる前の段階で先手を取られてしまう

ことが多く、自分のやりたいことがさせてもらえないというような試合内容で、課題も多く見つかりました。

そして、先日東京体育館で天皇杯・皇后杯平成二十七年度全日本卓球選手権大会が行われ、女子ダブルスの部でベスト八に入り、初の全日本でのランク入りを達成することができました。今まで全日本学生では、優勝、準優勝と結果を残してこれましたが、幅広い年齢層の選手が出場す

る全日本では結果を残したことがなかつたので、今回のランク入りは本当に嬉しかったです。今年の全日本は、私が今まで出場してきた中で一番応援にきて頂いた人が多く、沢山の声援をもらつての試合でした。遅い時間まで残って応援していただきの方々や、地元から応援に来てくれた父には本当に感謝しています。四月からはダブルスのパートナーもかわり、また全日本予選を勝ち上がり

そして、大会を終え、改めて試合を見てくれる人、応援してくれる人が沢山いることは幸せな事だと感じました。観客席に戻ると、自分の事のように喜んでくれる人たちがいて本当に周りの沢山の方たちに支えられていると思いました。これからも、応援してくれる人たちに笑顔になつてもらえるような試合ができるよう頑張りたいと思います。

原点回帰

ノングルー時代こそ元祖・高弾性高摩擦ラバー

MARK Vへ帰る

 Yasaka

<http://www.yasaka-jp.com>